



The Heart of Industry

2022年3月期
第2四半期 決算説明資料

2021年11月12日

株式会社イワキ

証券コード：6237
銘柄名：イワキポンプ



I . 2022年3月期 第2四半期 決算概要	・・・P 3
II . 2022年3月期 業績見通し	・・・P 15
III . 育成期 中期経営計画について	・・・P 24
IV . Appendix	・・・P 30

I . 2022年3月期 第2四半期 決算概要

2Q累計売上高としては上場来最高額。投資活況な半導体・液晶市場向けが全体を牽引。

	2021.3期 2Q		2022.3期 2Q	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年同期比)
売上高	13,159	15,580	2,420	+18.4%
売上総利益 (売上総利益率)	4,470 (34.0%)	5,267 (33.8%)	796	+17.8%
営業利益 (営業利益率)	711 (5.4%)	1,058 (6.8%)	346	+48.7%
経常利益	935	1,525	590	+63.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,068	1,191	122	+11.5%
1株当たり 四半期純利益	48.50円	54.36円	5.85円	+12.1%
為替レート (期中平均)	ドル	108.25 円	107.82 円	
	ユーロ	119.34 円	129.88 円	

1 売上高：半導体・液晶向け2Q累計売上高 上場来最高額 3,053百万円

- ✓医療機器向けを除き、順調に推移。結果、全体でも前年同期比+2,420百万円増収。
- ✓半導体・液晶向け2Q会計期間売上高も上場来最高額の1,566百万円。
- ✓半導体不足による顧客装置生産減の影響を受け、医療機器向けのみ前年同期比減。
- ✓2022年3月期2Q累計のイワキルディックグループ（以下、ING）売上高影響 648百万円（連結調整前）。
- ✓半導体・液晶向けを中心に受注好調に推移するも、空気駆動ポンプ部品の樹脂原料の需給逼迫や、新型コロナ感染拡大に伴う海外サプライチェーンを通じた一部部品調達難による影響が今後の懸念材料。

2 営業利益：連結調整影響による原価増、販管費増の結果、増益額は346百万円

- ✓1Qに続き連結子会社決算期ズレによる連結調整の影響残り、売上総利益は5,267百万円（前年同期比+17.8%、+796百万円）。
- ✓販管費について、
 - ・ING PL連結取込みによる影響額 前年同期比 +287百万円。
 - ・ING のれん償却費 同比 +41百万円。
 - ・研究開発費 同比 +87百万円。
 - ・輸出入費 同比 +30百万円。などの増加要因あり、販管費全体で同比 +449百万円。

3 親会社株主に帰属する四半期純利益：持分法による投資利益伸長も前期並みの特別利益計上無し

- ✓韓国、台湾、上海、香港を中心に半導体・液晶向け売上伸長。
- ✓前期 特別利益にて、ING子会社化に伴う段階取得に係る差益 347百万円発生。

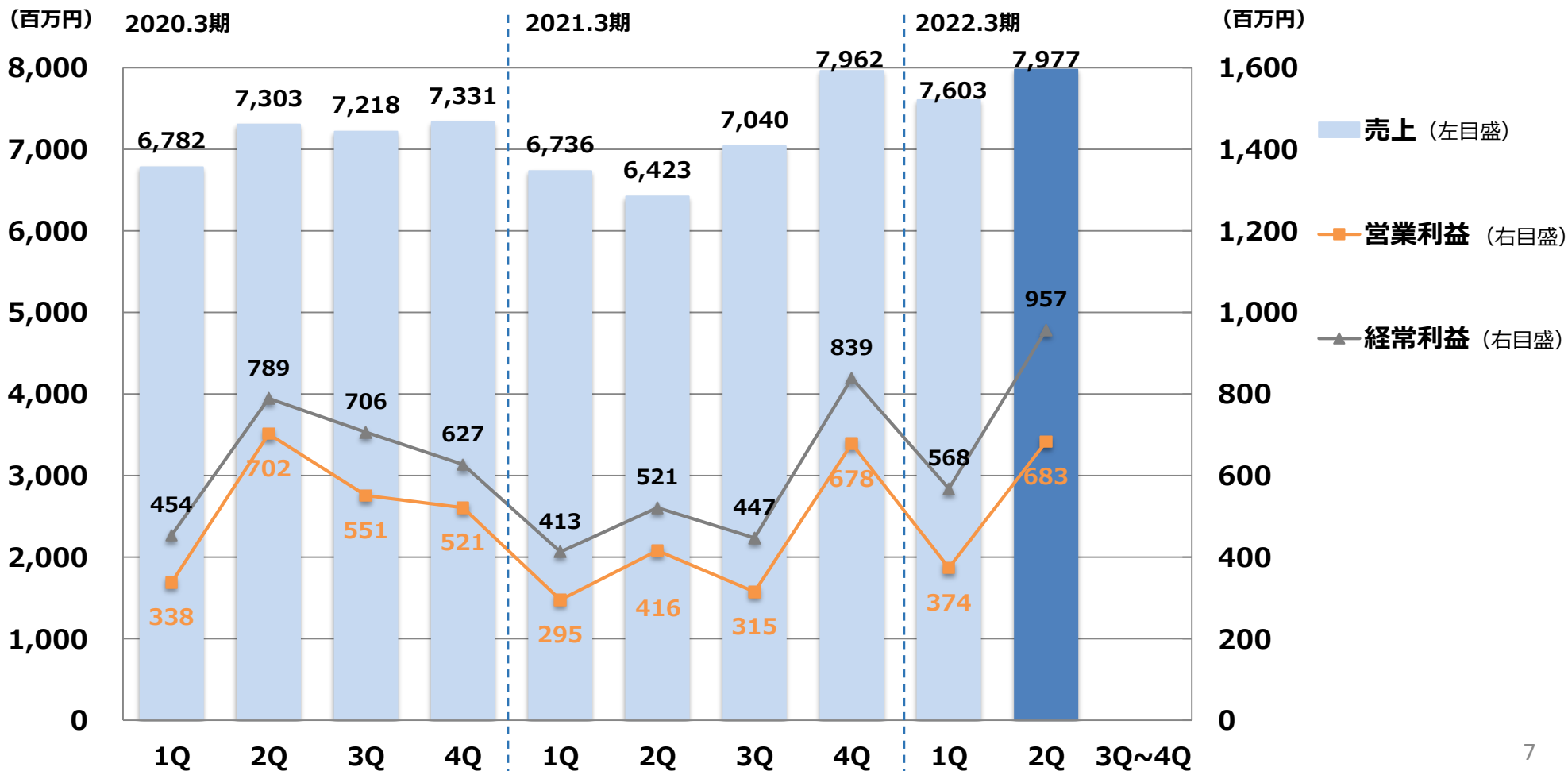
物流混乱による懸念強まる。サプライチェーン通じた影響も顕在化の懸念。

		営業面 (メンテナンス含)	生産・調達面	業績関連トピックス	感染状況	当社における 主な感染対策等
国内	1Q	通常稼働 顧客訪問制限有	生産：通常稼働 調達：生産への影響なし	・医療機器メンテをはじめ、 現場訪問復調しつつある一方、 緊急事態宣言による訪問制限も続く	・3度目の緊急事態宣言 発出	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務の導入 ・時差・輪番出勤 ・執務時ソーシャルディスタンスの確保 ・健康管理の徹底
	2Q		生産：通常稼働 調達：東南アジアロックダウン による部品調達懸念	・受注は順調に推移 ・訪問制限や一部案件延期等、影響も継続	・4度目の緊急事態宣言 発出	
海外	1Q	通常稼働 顧客訪問制限有	生産：通常稼働 調達：生産への影響なし	<ul style="list-style-type: none"> ・出荷停滞していたプロジェクター冷却向け 案件復調 ・アメリカ向けを中心に国際物流の混乱続く ・マレーシアロックダウンによる受注減 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種が進むにつれて規制緩和 傾向へ ・マレーシア感染拡大に伴うロックダウン 続く 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅勤務の導入 ・輪番出勤 ・執務時ソーシャルディスタンスの確保 ・健康管理の徹底 ・国や地域のガイドラインに 沿った各種感染予防策等
	2Q		生産：通常稼働 調達：コンテナ不足による 輸送コスト増	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ、ヨーロッパを中心に順調な受注状況 ・海外向け物流状況が更に悪化 ・マレーシアロックダウン解除、緩やかな回復 	・東南アジア厳しいロックダウン状況継続	

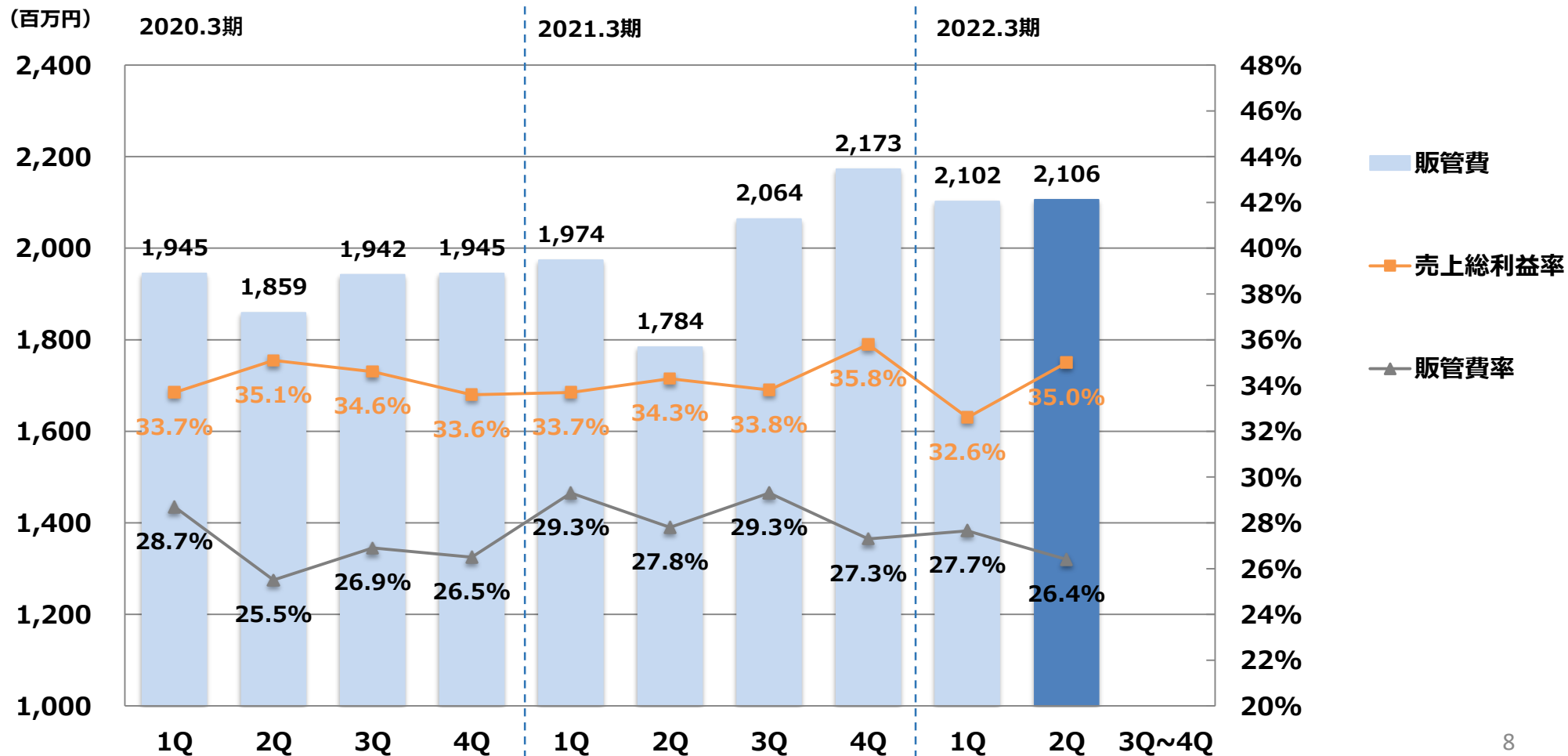
※ 赤字はネガティブな影響







4 売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

売上状況はコロナ禍以前の水準超え。半導体・液晶向けは直前四半期比でも増収。
 全体でも前期4Q売上を更新、今期2Q売上高 上場来最高額。



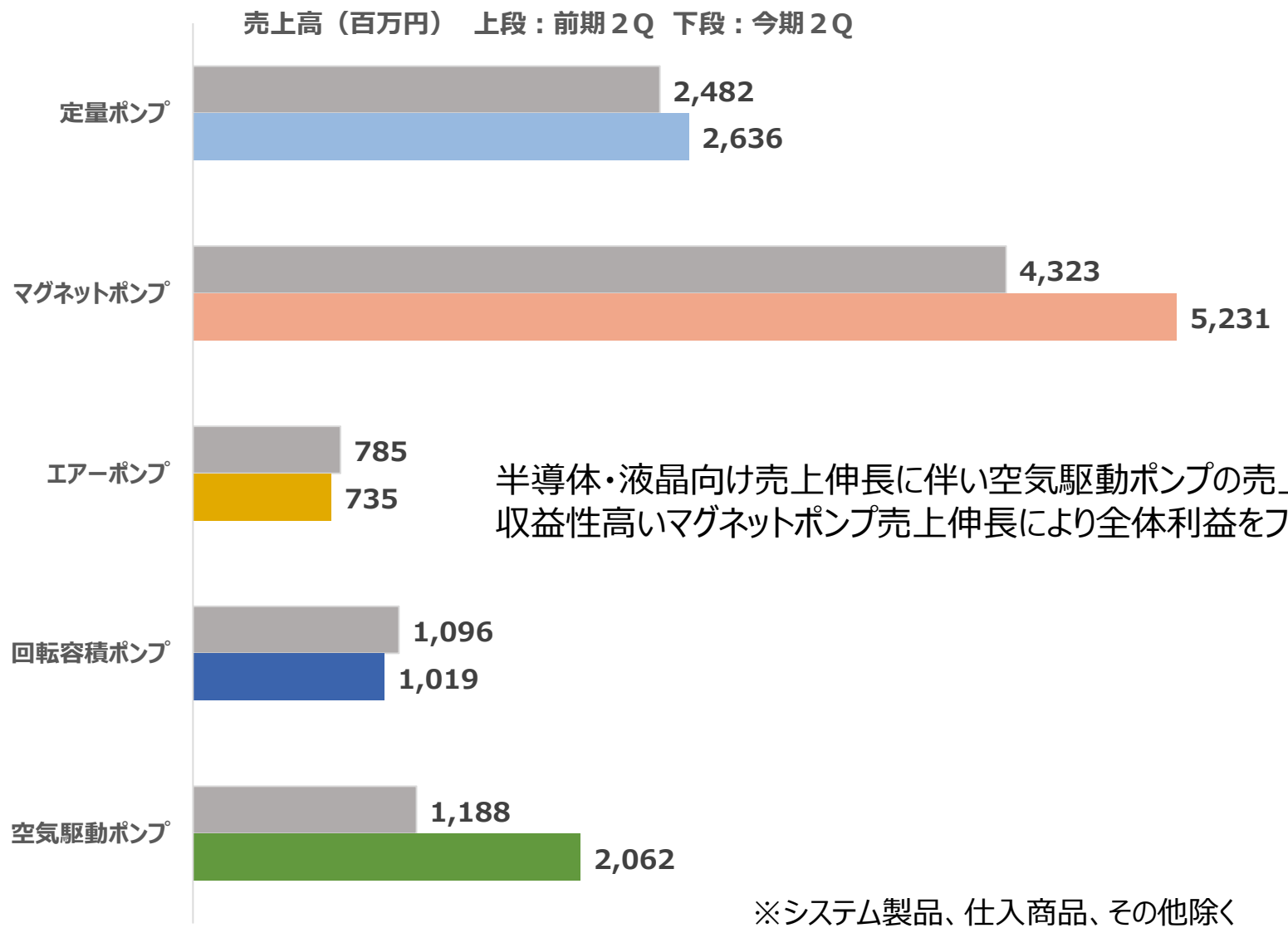
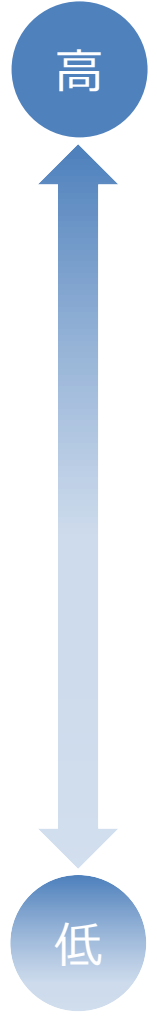
- 1 Q 連結子会社決算期ズレによる連結調整影響にて売上総利益率水準低下。
 2 Q 1 Q比で空気駆動ポンプ減の一方、マグネットポンプ伸長、売上総利益率水準も回復。



マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

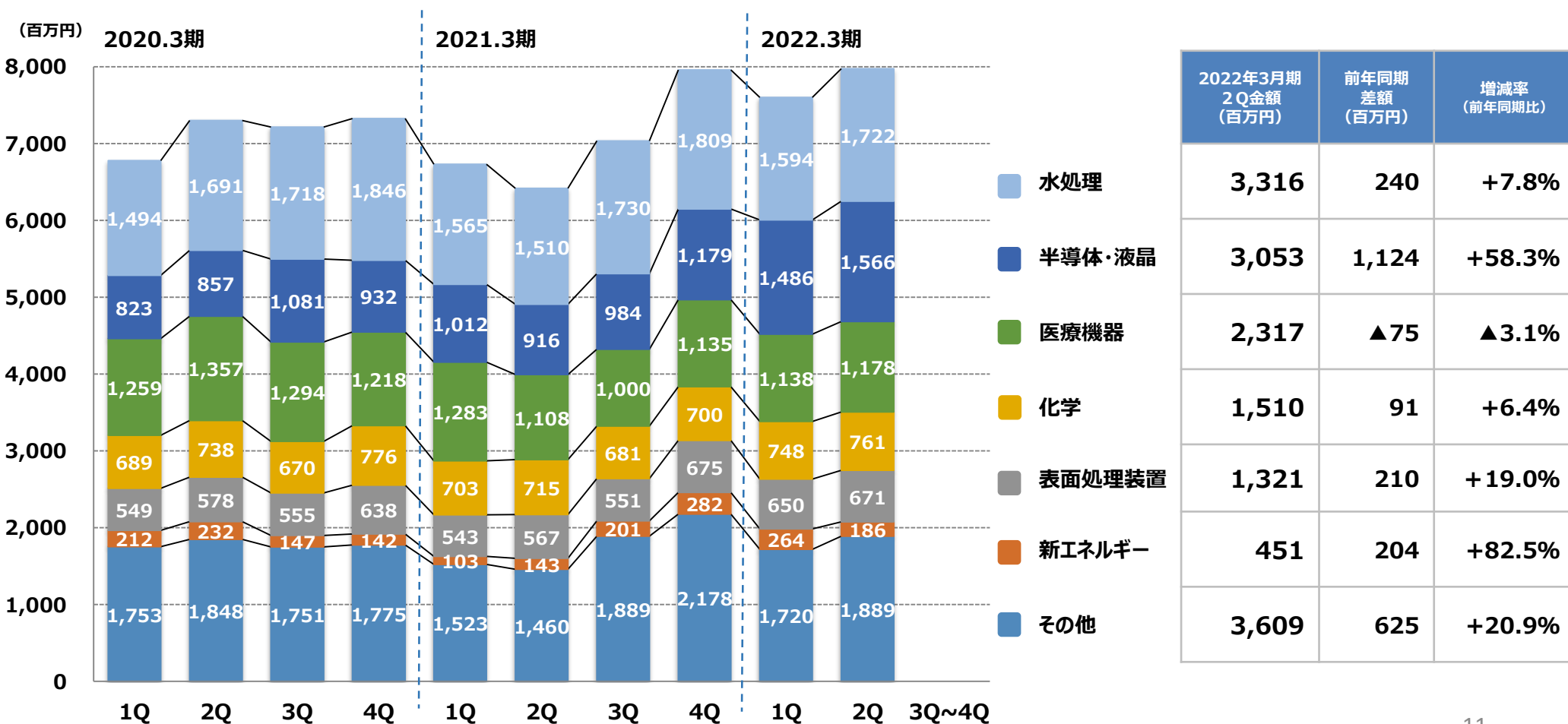
※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ

収益性の高・低

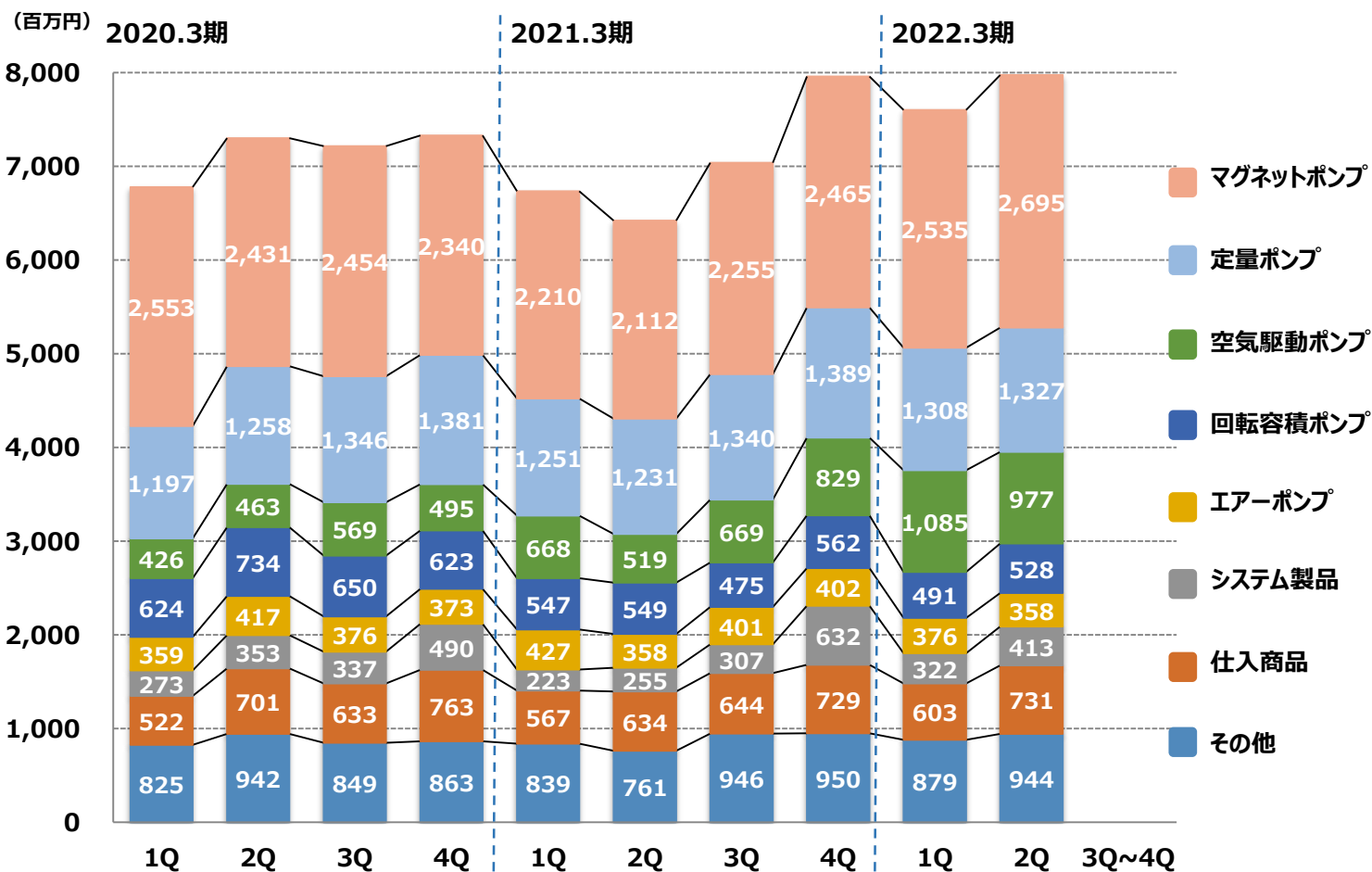


※システム製品、仕入商品、その他除く

半導体・液晶向けは国内、海外共に半導体製造装置メーカー向けが好調に推移。
 医療機器向けは国内の臨床検査装置メーカー向けを中心に需要回復。一方、海外は半導体不足による顧客装置生産減の影響を受け、トータルで前年同期比減。半導体不足解消後は需要も回復見込み。

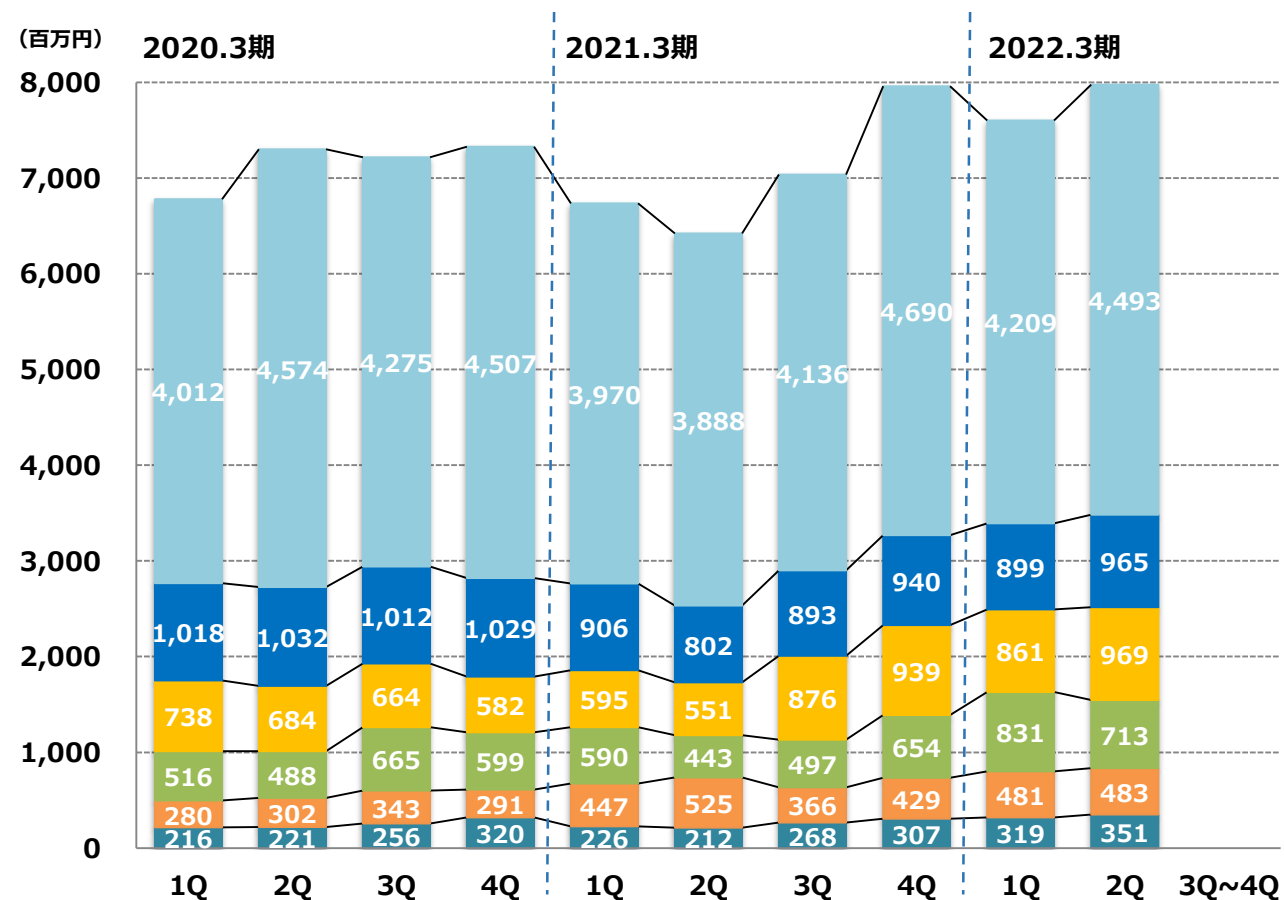


半導体・液晶向け空気駆動ポンプ大幅伸長。
主力製品のマグネットポンプは半導体・液晶向けでも伸長。



2022年3月期 2Q金額 (百万円)	前年同期 差額 (百万円)	増減率 (前年同期比)
5,231	908	+21.0%
2,636	153	+6.2%
2,062	874	+73.6%
1,019	▲77	▲7.0%
735	▲49	▲6.4%
735	256	+53.5%
1,334	133	+11.1%
1,824	222	+13.9%

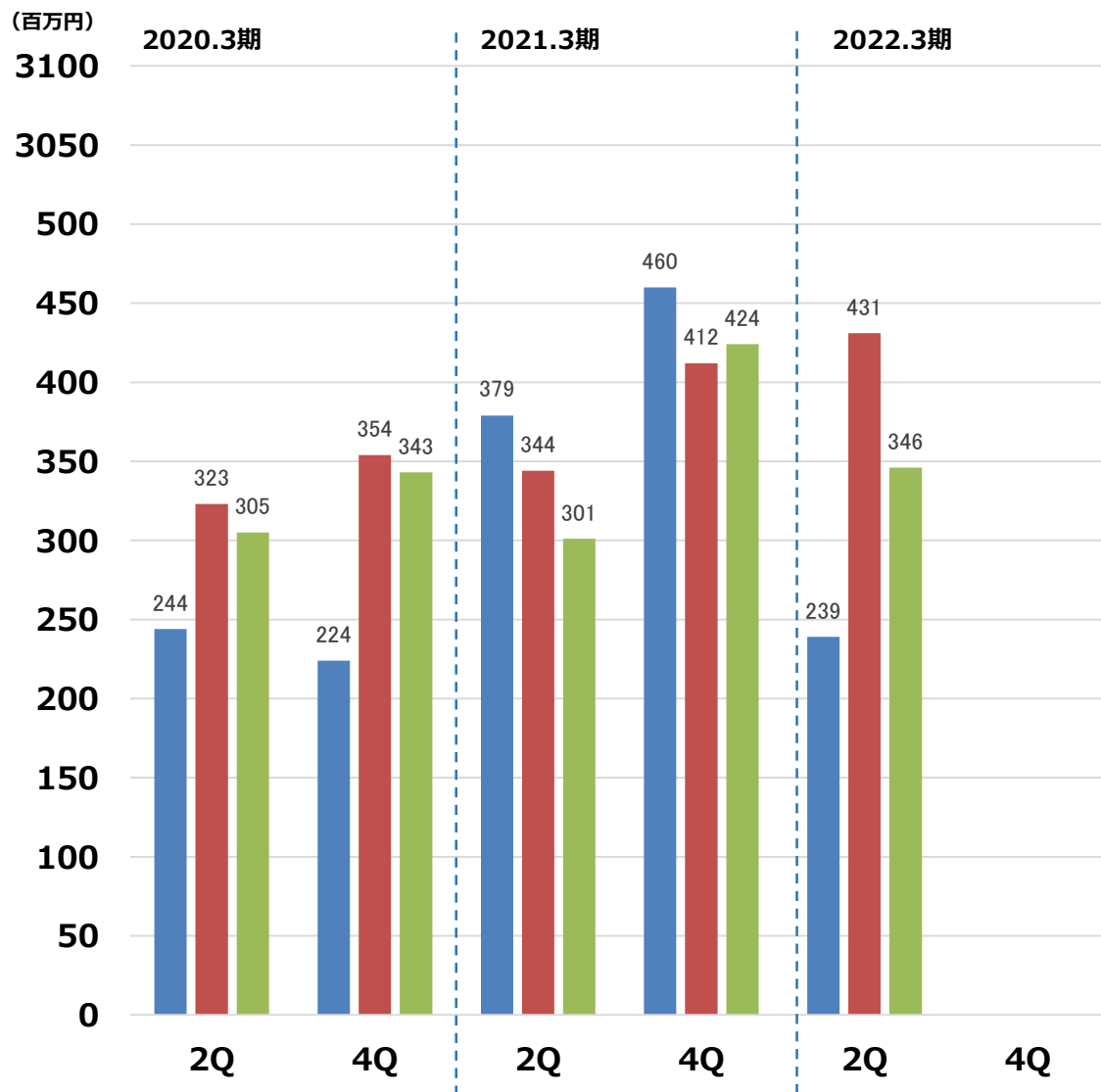
半導体・液晶向けが牽引し国内、海外共に好調に推移。
米国も水処理向けを中心に受注戻る。欧州 ING分売上除く売上ベースでも回復基調。



	2022年3月期 2Q金額 (百万円)	前年同期 差額 (百万円)	増減率 (前年同期比)
日本	8,703	844	+10.7%
米国	1,864	155	+9.1%
欧州	1,831	684	+59.7%
アジア	1,545	511	+49.4%
中国	964	▲7	▲0.8%
その他	671	232	+53.0%

海外合計 (海外売上比率)	6,877 (44.1%)	1,576	+29.7%
------------------	------------------	-------	--------

11 設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2022.3月期 2Q累計金額 (百万円)	増減額 (前年同期比)
■ 設備投資	239	▲139
■ 研究開発費	431	+87
■ 減価償却費	346	+45

Ⅱ. 2022年3月期 業績見通し

一部調達面、コンテナ需給逼迫の懸念あるも、前年比大幅増収の見込み。

	2021.3期		2022.3期（修正予） ※2021年10月15日開示		参考：2022.3期 （当初予）
	金額（百万円）	金額（百万円）	差額	増減率（前年比）	金額（百万円）
売上高	28,162	31,459	3,296	+11.7%	30,297
売上総利益 （売上総利益率）	9,703 (34.5%)	10,598 (33.7%)	895	+9.2%	10,364 (34.2%)
営業利益 （営業利益率）	1,706 (6.1%)	1,836 (5.8%)	130	+7.6%	1,752 (5.8%)
経常利益	2,222	2,634	412	+18.6%	2,243
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,091	2,072	▲18	▲0.9%	1,831
1株当たり 当期純利益	94.90 円	94.60 円	▲0.3円	▲0.3%	83.78 円
自己資本当期純利益率 （ROE）	9.7%	9.2%	—	（▲0.5pt）	8.2%
為替レート （期中平均）	ドル	106.77 円	（下期 想定レート） 110.00 円		（想定レート） 104.00 円
	ユーロ	121.88 円	（下期 想定レート） 130.00 円		（想定レート） 125.00 円

1 売上高：部品等調達懸念により売上の伸びは上期より鈍化の見込み

- ✓空気駆動ポンプ部品の樹脂原料の需給逼迫や、新型コロナ感染拡大に伴う海外サプライチェーンを通じた一部部品調達難による影響が懸念材料。
- ✓海外向けでは米国向けを中心にコンテナ需給逼迫しており、納期遅延の懸念材料となる。
- ✓一方で足元の受注状況は非常に好調。下期売上は上期より伸長ペースは落ちるが、通期見通しは当初予想を上回る見込み。

2 営業利益：生産関連、輸送、部品調達などのコスト増の結果、増益額は130百万円

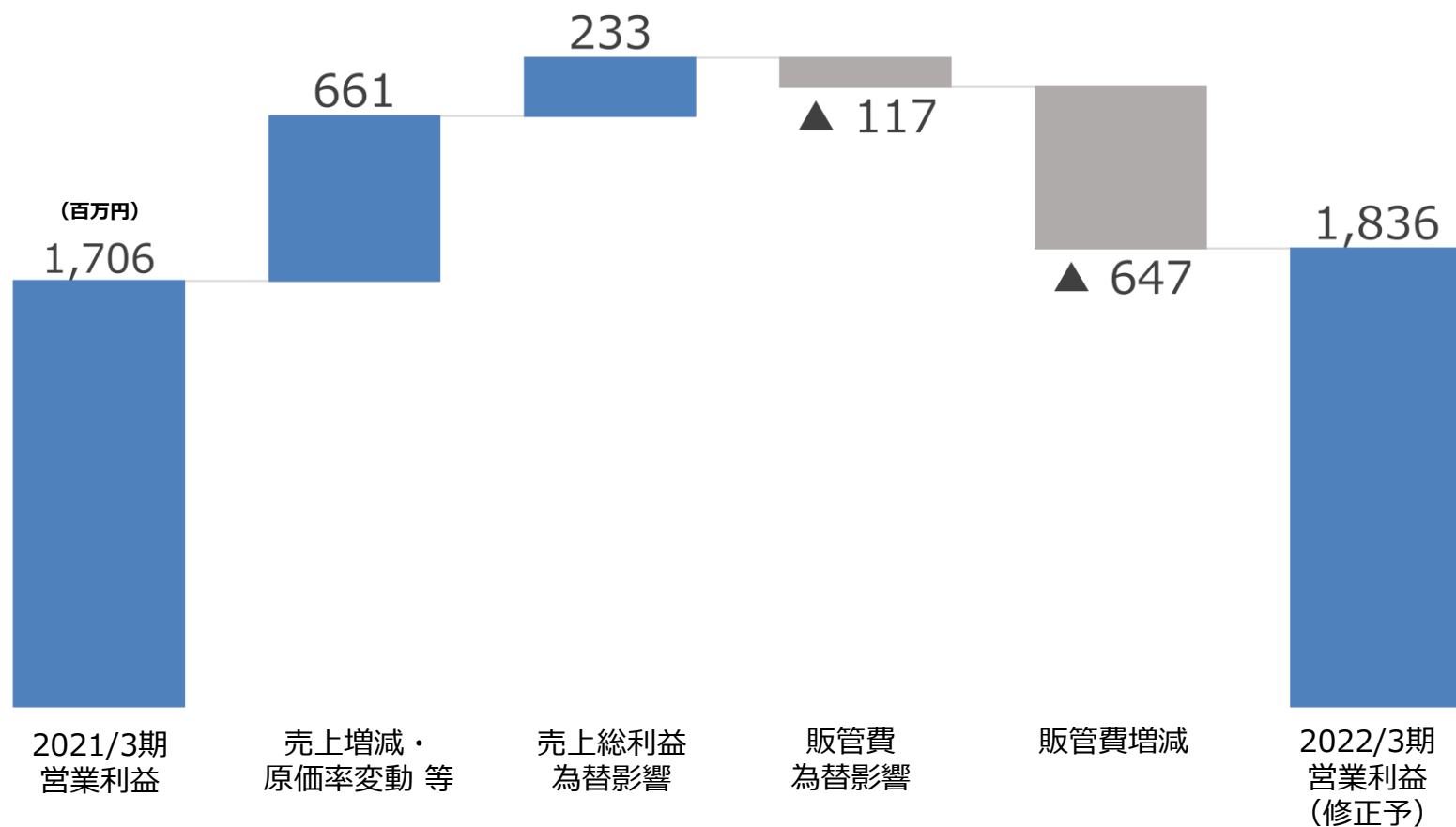
- ✓製造経費（原価）では、生産関連の調達・物流や生産体制再構築関連の修繕等のコスト増加を見込む。
- ✓販管費では、研究開発費や輸送関連のコスト増加を見込む。
- ✓ING PL連結取込みの影響額のギャップ。
 - 前期：2021年3月期 3～4Q 半期分を連結取込み。
 - 今期：2022年3月期 1～4Q 通期分を連結取込み。

3 親会社株主に帰属する当期純利益：持分法による投資利益伸長継続するも最終利益は減益見込み

- ✓持分法による投資利益は上期に引き続き高水準を維持する見込み。
- ✓特別利益の計上額差異（前期 ING子会社化に伴う段階取得に係る差益 381百万円発生）。
- ✓前期実績と今期見積りの法人税率差異による法人税等の計上額増。

3 2022年3月期 業績予想 増減益分析

通期：為替1円当たりの感応度	\$ (USドル)	€ (ユーロ)
売上	51 百万円	27 百万円
営業利益	16 百万円	11 百万円



全体的に概ね良好な市況環境を想定のもの、顧客側部品調達難に伴う影響は懸念材料。

強化市場

各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> ・リモートワーク推進に伴う遠隔操作用コントローラの需要が高まる ・食の安心安全の観点より植物工場が伸張 ・コロナによる延期案件の実行等により前年比増 	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理膜を利用した装置やシステムが好調 ・殺菌用途の需要が堅調
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> ・臨床検査装置（免疫分析装置＋生化学分析装置）昨年低迷分の回復傾向が高まる ・内視鏡洗浄装置向けが代替需要で2Qから回復 ・人工透析装置がメンテナンス需要回復・代替需要も回復基調 	<ul style="list-style-type: none"> ・中国 臨床検査装置（免疫分析装置＋生化学分析装置）向けは、電子部品入手難による現地顧客の減産が上期から継続され軟調
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> ・二次電池市場が軟調 ・家庭用燃料電池は計画案件が動き出し一部需要回復 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア市場で二次電池の需要が堅調
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> ・当該製造装置メーカー向け需要が好調 	<ul style="list-style-type: none"> ・メモリ、ファウンドリ向け設備投資が順調
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> ・高付加価値製品の開発堅調 ・環境規制による樹脂リサイクル等による需要が増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州・アジアで二次電池材料の製造投資が活発
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> ・5G対応、IoT市場向けなど高付加価値電子部品の需要拡大 ・半導体不足で車販売伸びず、車載用途が軟調 	<ul style="list-style-type: none"> ・車載用やICT関連の電子部品が世界的に需要拡大 ・パッケージ基板の設備投資が好調の見込み

※ 赤字はネガティブな見通し

5 2022年3月期 市場別売上高 修正予想

当初予想を大きく上回る半導体・液晶向け受注状況を鑑み、同市場向け売上予想を主に上方修正。

	2022年3月期 当初予想 (百万円)	2022年3月期 修正予想 (百万円)	差額	増減率	参考：2022年3月期 2Q実績 (百万円)
水処理	6,962	7,120	157	+2.3%	3,316
半導体・液晶	4,331	5,343	1,011	+23.3%	3,053
医療機器	4,556	4,587	31	+0.7%	2,317
化学	3,204	3,165	▲38	▲1.2%	1,510
表面処理装置	2,492	2,605	112	+4.5%	1,321
新エネルギー	644	751	107	+16.6%	451
その他	8,104	7,885	▲219	▲2.7%	3,609
合計	30,297	31,459	1,162	+3.8%	15,580

6 2022年3月期 製品別売上高 修正予想

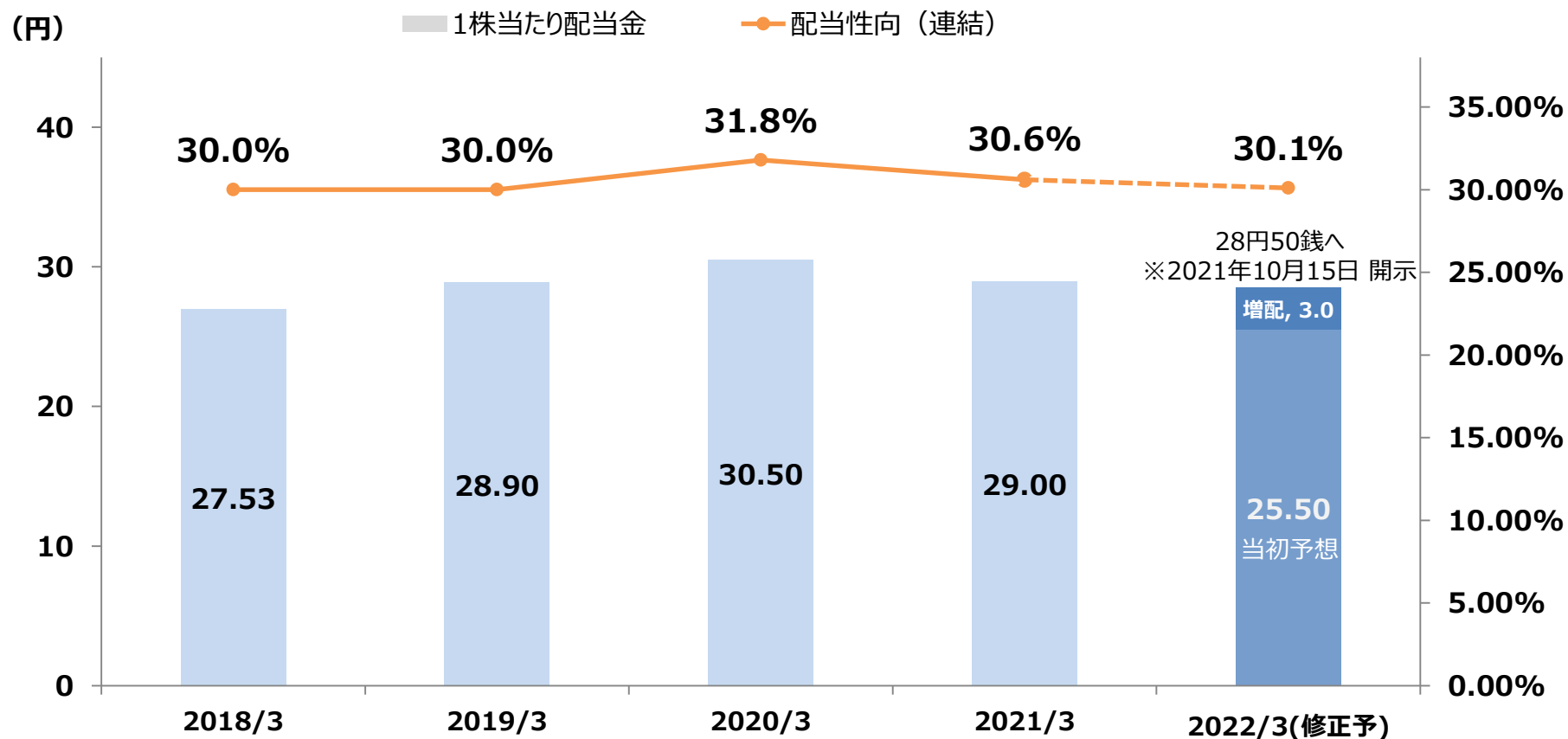
市場別の修正予想を受け、関連するマグネットポンプ・空気駆動ポンプの伸長を見込む。

	2022年3月期 当初予想 (百万円)	2022年3月期 修正予想 (百万円)	差額	増減率	参考：2022年3月期 2Q実績 (百万円)
マグネットポンプ°	9,918	10,477	558	+5.6%	5,231
定量ポンプ°	5,715	5,642	▲72	▲1.3%	2,636
空気駆動ポンプ°	2,984	3,578	594	+19.9%	2,062
回転容積ポンプ°	2,305	2,193	▲111	▲4.8%	1,019
エアーポンプ°	1,795	1,654	▲141	▲7.9%	735
システム製品	1,260	1,457	197	+15.6%	735
仕入商品	2,683	2,712	28	+1.1%	1,334
その他	3,634	3,744	109	+3.0%	1,824
合計	30,297	31,459	1,162	+3.8%	15,580

基本方針

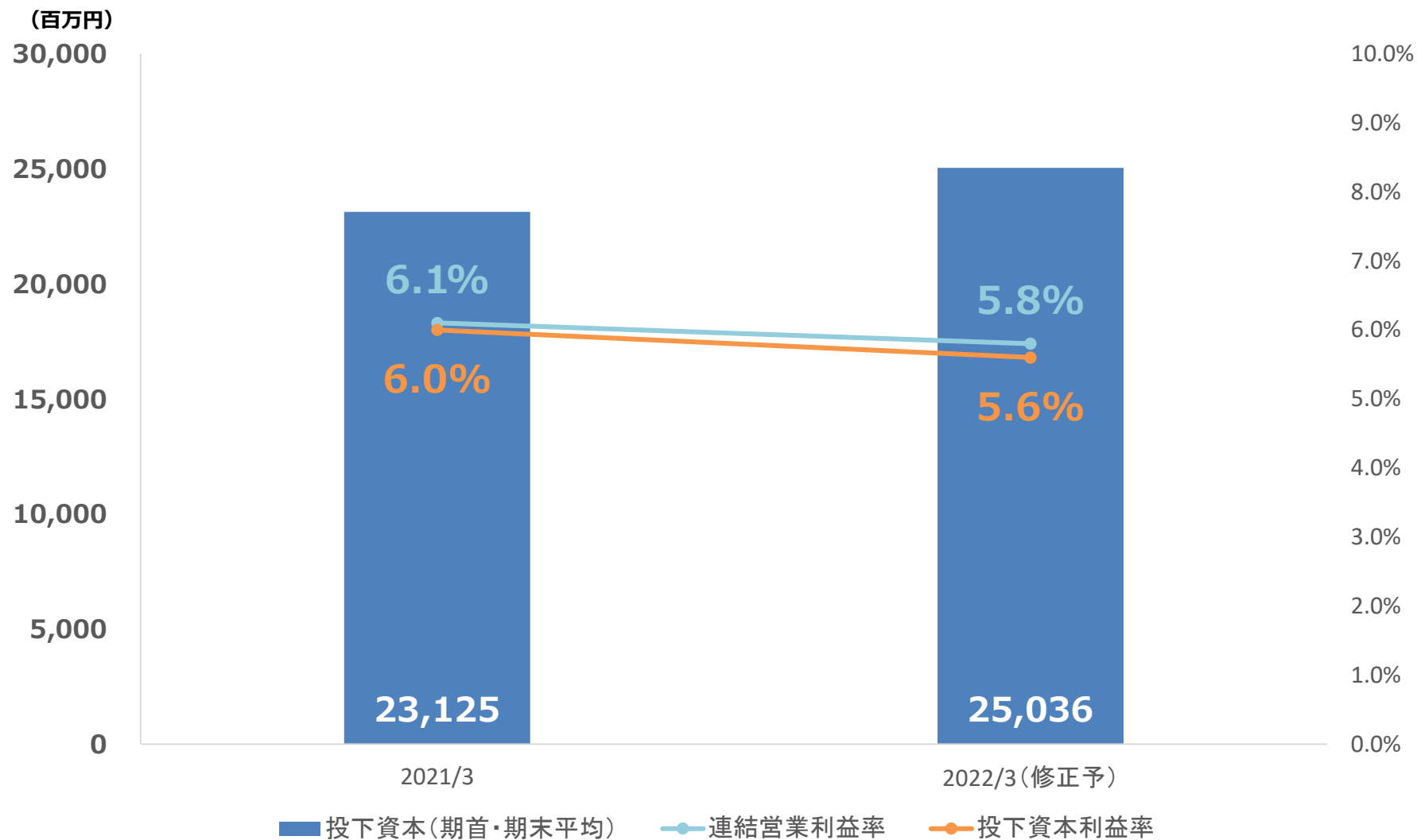
・配当性向30%超

・安定的な配当



(注) 2018/3は株式の3分割を考慮し、算定しています。(小数点第三位以下は切捨)

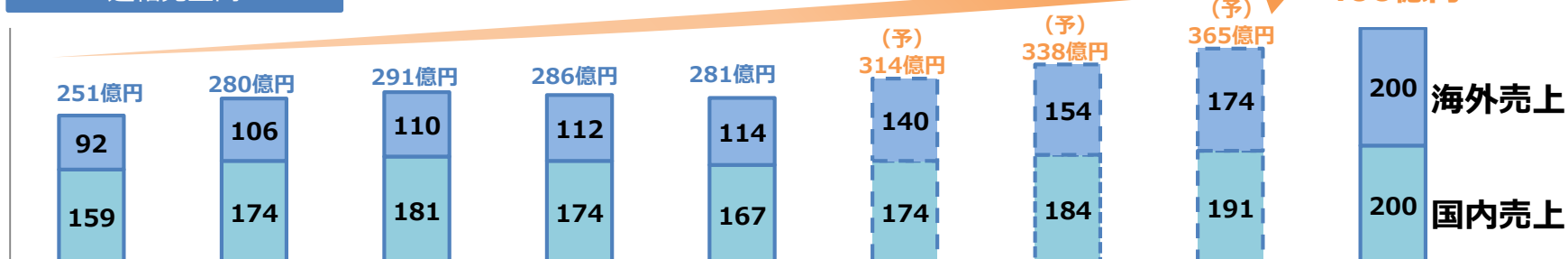
当該指標の活用により、更なる企業価値向上を目指す。



Ⅲ. 育成期 中期経営計画について



連結売上高



連結営業利益率



以降、継続して10%超の水準を維持

「オールイワキで世界No.1を提供する」

～ グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する ～

目標を達成するための姿勢「チェンジ&チャレンジ」

～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

定量目標

定性目標

持続的に成長する企業として
企業価値向上を目指した成長戦略の推進

育成期における重点実施項目として以下、主な重点テーマを設定

10年ビジョン定量目標達成に向けたテーマ

- 1) 生産体制の再構築
- 2) 生産及び販売計画の精度向上
- 3) 不具合の撲滅
- 4) 全社の生産性向上

持続的な企業価値向上に視点を置いた
経営の推進に関するテーマ

- 1) 人事制度の抜本的な見直し
- 2) 基幹システムの刷新
- 3) IoTの活用
- 4) CSR活動

10年ビジョン定量目標を達成するための具体的各種施策の設定

重点テーマ	育成期 主な実施内容	取組状況	今後の課題
生産体制の再構築	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル生産課題の抽出 ・外部倉庫活用による納期短縮の実現 ・物流機能外部委託による、生産特化体制への移行検討・実施 ・生産体制再構築プロジェクト発足 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・KD工場 生産品質の標準化 ・更なる納期短縮への取組み ・原価低減
生産及び販売計画の精度向上	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客情報共有、部門間協業体制推進 ・プロセス用途分 計画精度向上についての検討 ・フォーキャスト制度運用開始による出荷保留品低減 	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・協業体制の継続強化 ・計画精度向上に向けた検討継続 ・海外マーケット調査（コロナ禍により停滞） ・デパート戦略も視野に入れた計画策定
不具合の撲滅	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト体制による不具合撲滅の推進 ・管理項目 2件／3件中 実施完了 完了：スピードアップ 未完了：慢性不具合、メンテナンス協業案件 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・当該プロジェクト継続推進 ・慢性不具合の撲滅 ・徹底的な再発防止活動の推進
全社の生産性向上	<ul style="list-style-type: none"> ・外部倉庫活用による工場内スペース確保、作業改善 ・各種業務システムの導入 (得意先管理、人事労務、予算管理、経費精算、RPA活用) ・自動組み立てロボット導入 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンコア業務へのシステム導入拡大 ・ロボット化の水平展開 ・グループ含めた事業運営効率化 ・残塩計事業での更なるシナジー発揮

※オレンジ枠：優先度高

【取組状況評価】

○：達成見込み or 順調に進捗、△：進捗若干遅れ、▲：進捗遅れ、×：進捗なし

持続的な企業価値向上に視点を置いた経営の推進

重点テーマ	育成期 主な実施内容	取組状況	今後の課題
人事制度の抜本的な見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・人事評価制度の見直し ・給与体系、賃金カーブの見直し 	△	<ul style="list-style-type: none"> ・詳細制度設計 ・現状制度からの移行
基幹システムの刷新	<ul style="list-style-type: none"> ・システム選定完了、導入に向けたプロジェクトスタート ・システム導入に向けた各業務フローの見直し ・導入に向けた各種インターフェースの精査、開発 	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・導入1年延期 2024年3月期予定 ・確実な導入に向けた各種運用テスト実施
I o Tの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・水処理コントローラによるモニタリング、管理 ・R P A 導入による業務工数削減 	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスモデル・モノづくりへの展開
CSR活動	<ul style="list-style-type: none"> ・環境法規制に対応した製品の提供 (RoHS指令/REACH規制 等) ・環境に配慮した製品開発 (高効率製品開発 等) ・従業員教育 ・埼玉工場オフセット電力メニュー採用 ・各種地域貢献活動 (献血、ボランティア等) 	▲	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動、人権対応等リスク管理も含めた加速する守りの部分への早急な対応 ・人的資本投資の強化

※ オレンジ枠：優先度高

【取組状況評価】

○：達成見込み or 順調に進捗、△：進捗若干遅れ、▲：進捗遅れ、×：進捗なし

5 2022/3期-2024/3期 計画数値

	2022/3期 計画		2023/3期 計画		2024/3期 計画	
	金額 (百万円)	増減率 (前年比)	金額 (百万円)	増減率 (前年比)	金額 (百万円)	増減率 (前年比)
売上高	31,459	+11.7%	33,841	+7.6%	36,550	+8.0%
売上総利益	10,598	+9.2%	12,028	+13.5%	13,315	+10.7%
営業利益	1,836	+7.6%	2,836	+54.5%	3,955	+39.4%
経常利益	2,634	+18.6%	3,607	+36.9%	4,725	+31.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,072	▲0.9%	2,763	+33.3%	3,557	+28.8%

1 来期以降も投資旺盛な状況が想定される半導体・液晶向けに関する受注を勘案し、国内は来期6%弱、再来期4%弱、海外も同様に来期10%弱、再来期13%の成長を見込む。

2 大型展示会費用は2023/3期の発生見込み。増収効果により営業利益は来期以降各年2桁増を見込む。営業利益率 5.8% → 8.4% → 10.8%

3 持分法による投資利益は、ほぼ横バイを想定。増収効果等により営業利益同様、経常利益以下の段階利益も各年2桁増を見込む。

IV. Appendix



2021年8月18日

各 位

会 社 名 株式会社イワキ
代表者名 代表取締役社長 藤中 茂
(コード番号：6237 東証第一部)
問合せ先 執行役員経営管理本部長 井上 誠
(TEL 代表 03-3254-2931)

新市場区分「プライム市場」選択申請に関するお知らせ

当社は、2021年7月9日付で株式会社東京証券取引所（以下「東証」といいます。）より「新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果について」を受領し、「プライム市場」上場維持基準に適合していることを確認いたしました。

この結果を踏まえ、2021年8月18日開催の取締役会において、「プライム市場」を選択し、東証に対して申請することを決議いたしましたのでお知らせいたします。

今後は、東証の定めるスケジュールに基づき、新市場区分の選択申請に係る所定の手続きを進めてまいります。

引き続きコーポレートガバナンスを強化していくとともに、持続的な成長と中長期的な企業価値向上に努め、経営理念である「常に最前線で産業を支え、社会の発展と人々の幸福に寄与する」べく取り組んでまいります。



会社名 株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)
ケミカルポンプ[®]の専門・総合メーカー

設立 1956年4月10日

代表取締役社長 藤中 茂

本社 東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

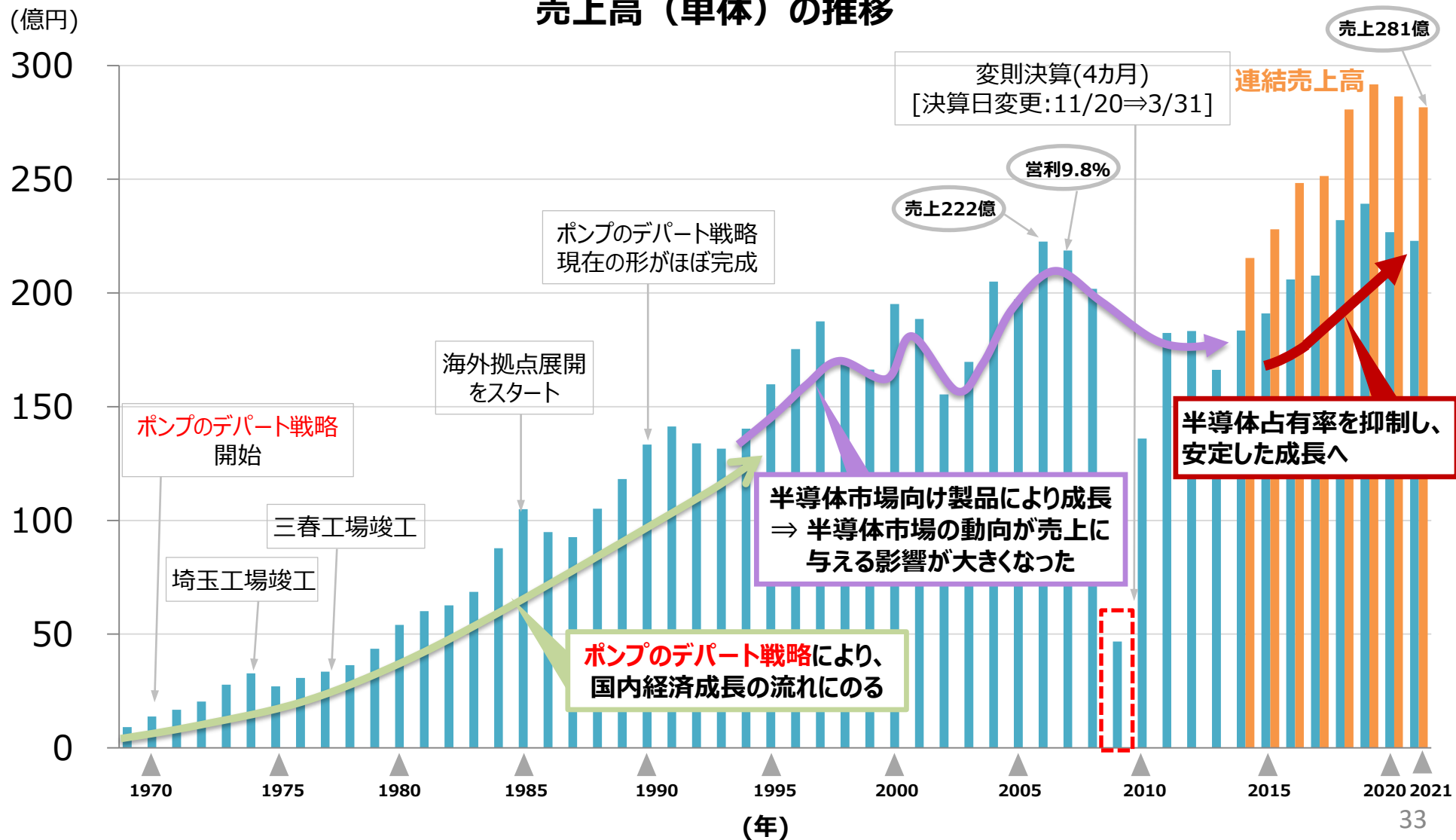
資本金 10億4,469万円 (2021年9月末現在)

従業員数 連結：994人 / 単体：766人 (ともに、2021年3月末現在)

事業内容 ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の
開発・製造、仕入及び販売等

上場取引所 東京証券取引所
(銘柄名：イワキポンプ / 証券コード：6237 / 市場：東証一部)

売上高（単体）の推移



ケミカルポンプ[°] = 化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ[°]



水を扱うポンプとは異なり、
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もあるため



非常に高い安全性が求められる
(漏れないこと)

1

お客様の様々な要望にお応えできる
豊富な製品ラインナップ

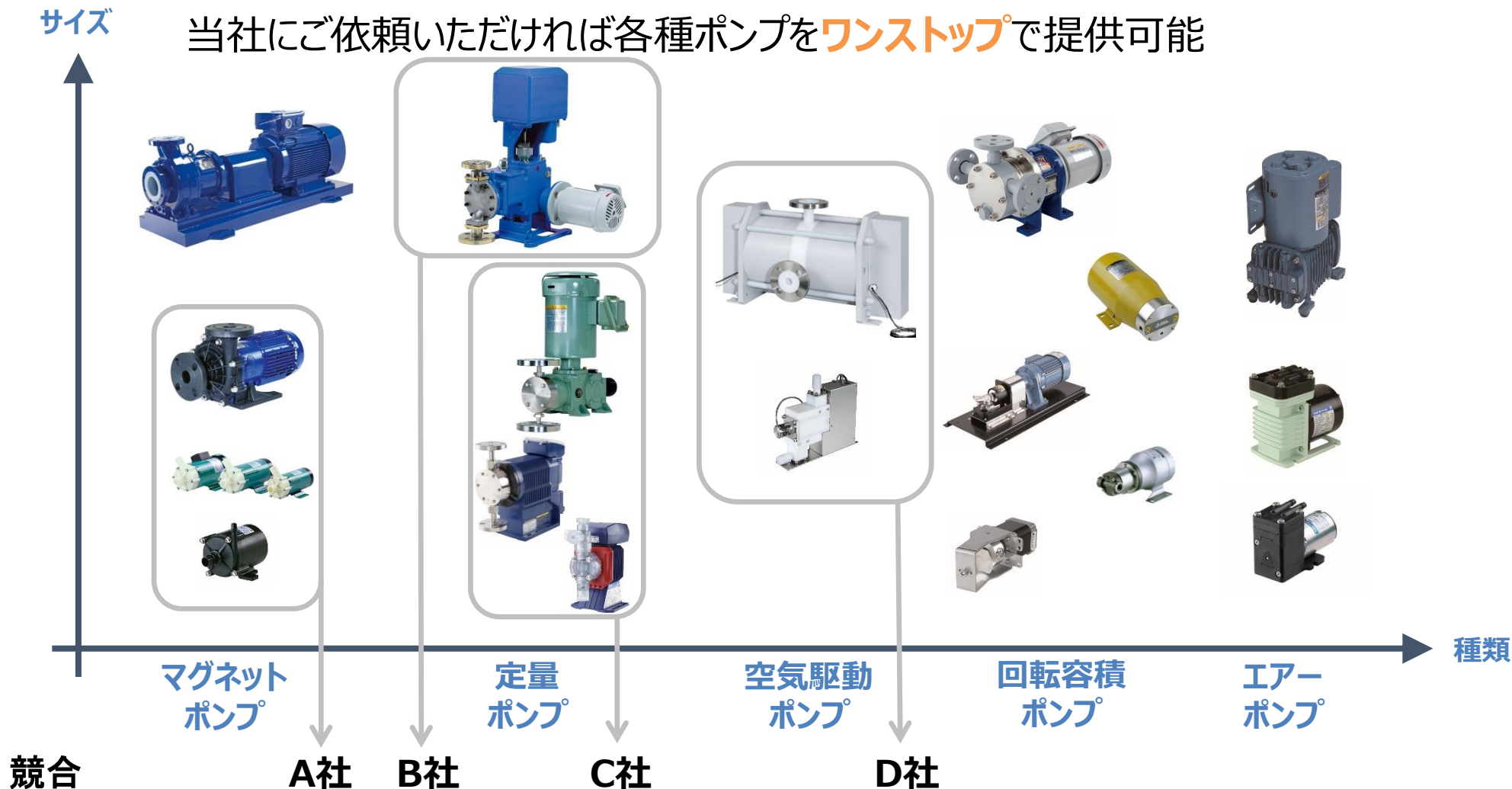
2

お客様への強力なサポートが可能な
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

各種ポンプにおいて**60シリーズ以上、数万点にのぼる型式**を展開
当社にご依頼いただければ各種ポンプを**ワンストップ**で提供可能

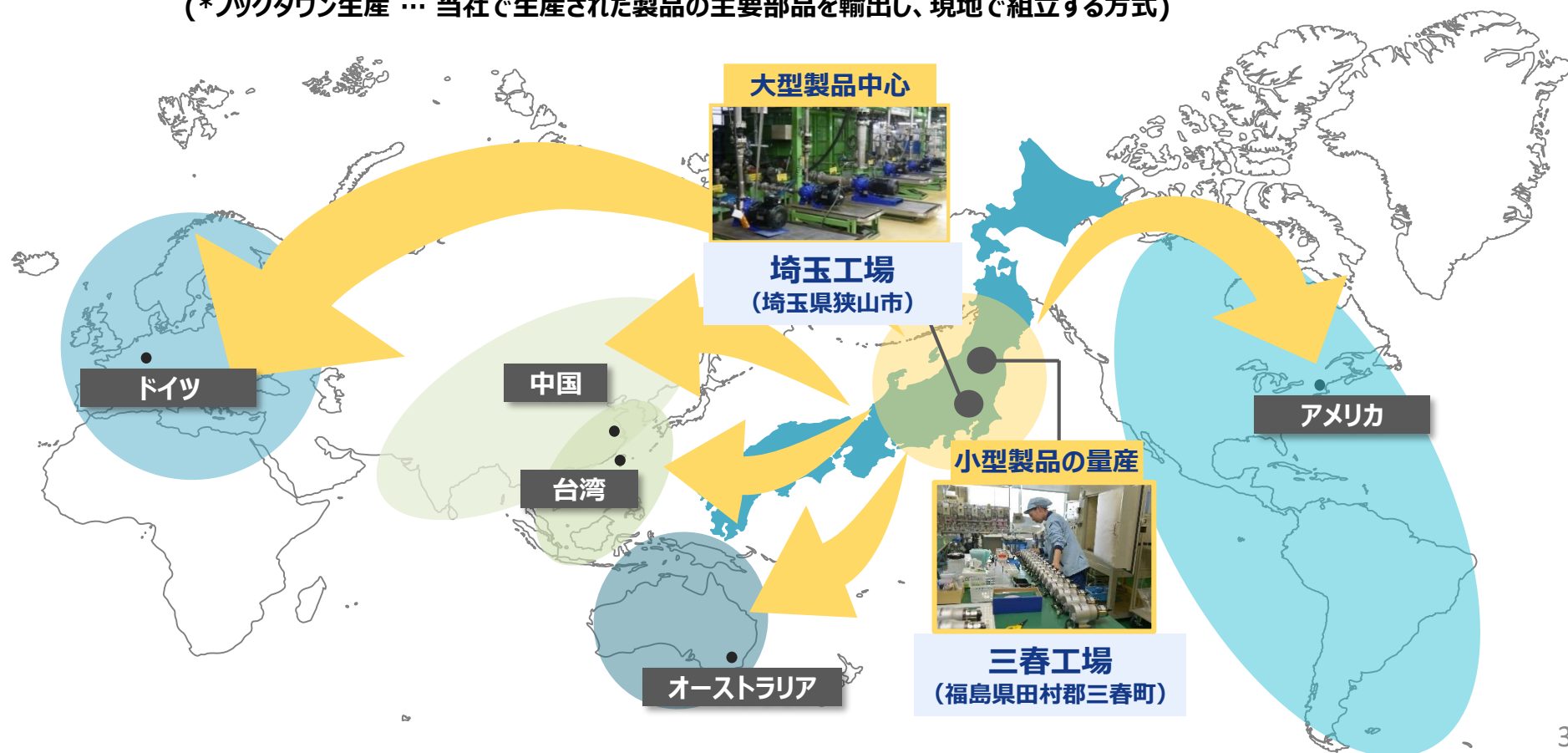


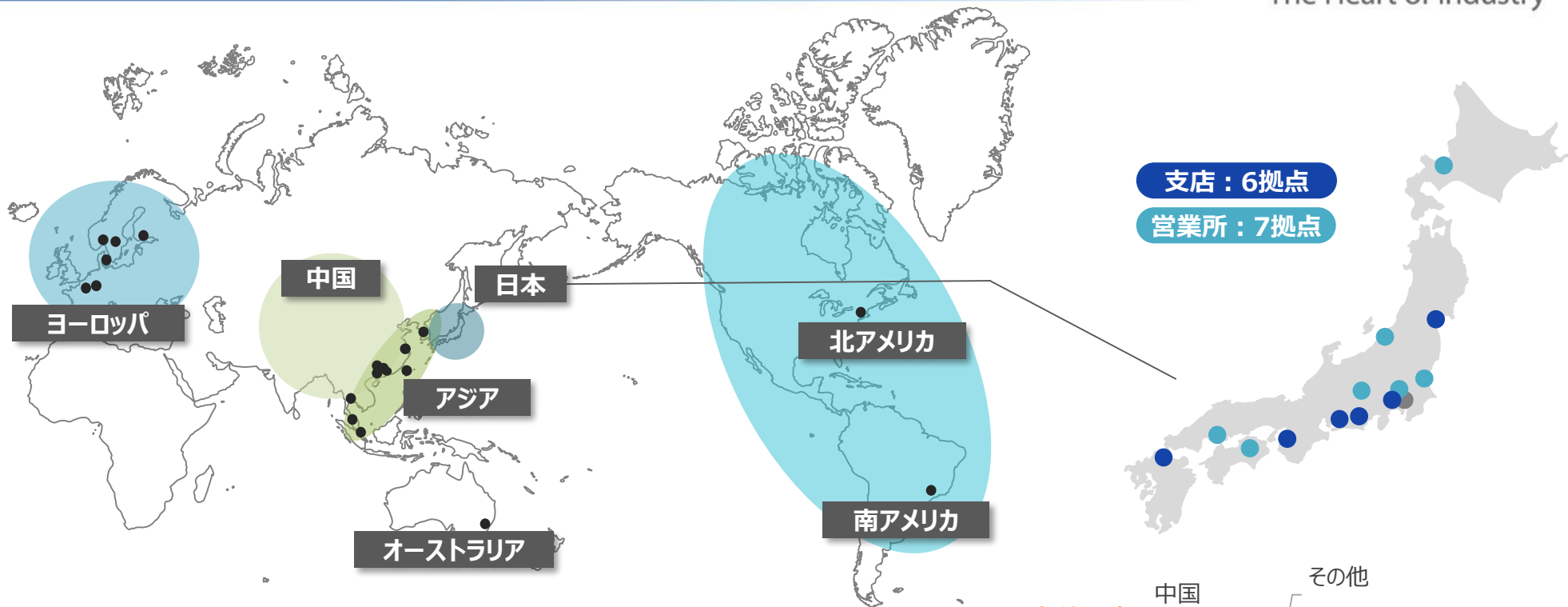
多品種少量生産を強みとしながら、年間約80万台の生産能力を有する

国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 5拠点でのノックダウン*生産により短納期・在庫効率化

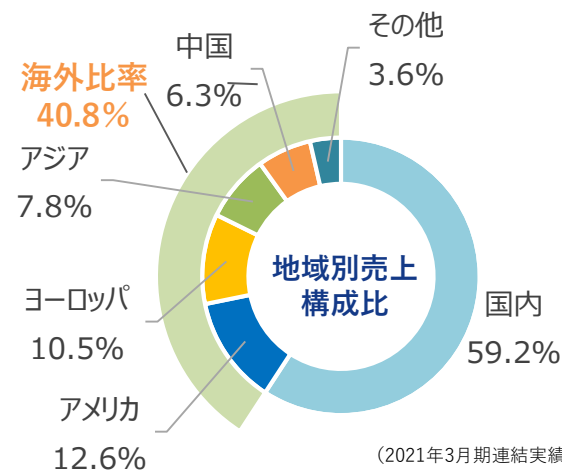
(*ノックダウン生産 … 当社で生産された製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)





本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開

15カ国21社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



(2021年3月期連結実績)

お客様のニーズにあったソリューションを
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供

当社



ポンプ



流体制御ノウハウ

解決して欲しい困りごと等の

ニーズ



ユーザー(お客様)

問題解決するための

ソリューション





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 経営管理本部 経営企画部

E-mail : ir@iwakipumps.jp

受付時間 : 9時～17時30分

(土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く)

免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。